

たから 財

令和3年度 資料館 ×
埋蔵文化財調査センター
後期連携企画展

2



—宝町遺跡第20次発掘調査速報展—

展示解説

はじめに

金沢大学埋蔵文化財調査センターでは、2021（令和3）年8月2日から9月24日にかけて、宝町キャンパス内にある宝町遺跡の20回目の発掘調査を実施しました。附属病院敷地内での緊急発掘調査のため、一般向けの現地説明会は開催できませんでしたが、その代替わりとして調査成果を金沢大学資料館で速報展示することにしました。近世・近代を中心とする宝町遺跡について、出土遺物や現場写真、記録図面とともにご紹介します。併せて、金沢大学埋蔵文化財調査センターや他の構内遺跡についても知っていただければ幸いです。

I 金沢大学埋蔵文化財調査センターと構内遺跡

(1) 金沢大学埋蔵文化財調査センター

金沢大学埋蔵文化財調査センターは、1997（平成9）年に開所した学内共同利用施設です。城内キャンパスから角間キャンパスへの移転に際して、構内で遺跡が発見されたことを契機として設立されました。

角間キャンパス（人間社会学域、理工学域、医薬保健学域薬学類・医薬科学類、融合学域）には角間遺跡、宝町キャンパス（医薬保健学域医学類・附属病院）には宝町遺跡、鶴間キャンパス（医薬保健学域保健学類）には鶴間遺跡、さらに特別支援学校には東兼六遺跡が存在しています。これらの遺跡の範囲内で建設工事が行われるたびに、埋蔵文化財調査センターが緊急発掘調査を実施してきました。



金沢大学埋蔵文化財調査センターの外観

(2) 角間遺跡

角間キャンパスの南側、浅野川の河成段丘に張り出した丘陵先端部（標高約75～110m）に立地する遺跡です。縄文時代中期と平安時代を中心とし、特に平安時代には山間寺院とその信仰等を示す遺構・遺物が見つかっています。



縄文土器

青磁水注



方形周溝状遺構



墨書土器



金沢大学構内遺跡と周辺の主な遺跡

（国土地理院タイルに遺跡名等を追記して作成、

★が埋蔵文化財調査センターが調査した遺跡）



(3) 鶴間遺跡

犀川と浅野川に挟まれた小立野台地中央部（標高約 60 m）に立地する遺跡です。近世の遺構・遺物とともに、近代以降の監獄・刑務所の遺構・遺物が見つっています。これらは、明治五大監獄の一つである金沢監獄及び後進の金沢刑務所の遺産であり、近代刑法史や近代建築史を考える上でも注目されます。



監獄食器・刑務所食器



監獄の五翼放射状舎房基礎

(4) 宝町遺跡

小立野台地中央部（標高約 55 ～ 60 m）に立地する遺跡です。宝町キャンパスの全域に広がっており、今回の調査より前から、近世の加賀藩与力町や寺域、近代病院等の遺構・遺物が見つっています。



近世与力町の組皿



近代眼科病棟基礎

(5) 東兼六遺跡

小立野台地の丘陵下位（標高約 27 m）に立地する遺跡です。遺構は確認されていませんが、近世・近代の陶磁器が客土に混ざって出土しました。



東兼六遺跡の試掘調査作業状況

遺跡の緊急発掘調査とは

現在、日本国内には、約 47 万か所の遺跡（文化財保護法上の埋蔵文化財包蔵地）が存在しています。それらの遺跡に対し、毎年約 8 千件の発掘調査が実施されています。その 9 割を占めるのが、工事に伴う緊急発掘調査です（残り 1 割が学術調査等）。遺跡保存の観点から言えば、遺跡は地面の下で埋もれたままの方が良いのですが、公共工事等でどうしても遺跡がある場所を掘削しなければならない場合、次善の策として記録保存のための発掘調査を緊急に実施するのです。

工事に伴う緊急発掘調査では、調査終了後に遺跡は破壊されてしまいます。そのため、この種の発掘調査にあたっては、考古学・埋蔵文化財の専門知識を持った調査担当者が、測量・写真撮影等の各種技術を駆使して、遺跡の情報を最大限に記録し、それを後世のために保存します。また、調査時に出土した遺物は、地点記録をとった上で全て回収し、各調査機関で大切に保管しています。

II 宝町遺跡第 20 次発掘調査の概要

今回の宝町遺跡第 20 次発掘調査は、金沢大学附属病院機能強化棟建設に伴う緊急発掘調査です。調査面積は 592 m²で、調査期間は 2021（令和 3）年 8 月 2 日～9 月 24 日の約 2 ヶ月です。調査区の近くに掘った土を置く場所が確保できなかったため、調査区を二分して半分を発掘調査し、残り半分を排土置き場とする反転調査の手法を採りました。8 月に南東半の B 区を調査し、9 月に北西半の A 区を調査しました。

発掘調査の結果、近世加賀藩与力町の遺構・遺物と、近代病院の遺構・遺物が見つかり、宝町の地における過去の人々の活動の痕跡を捉えることができました。

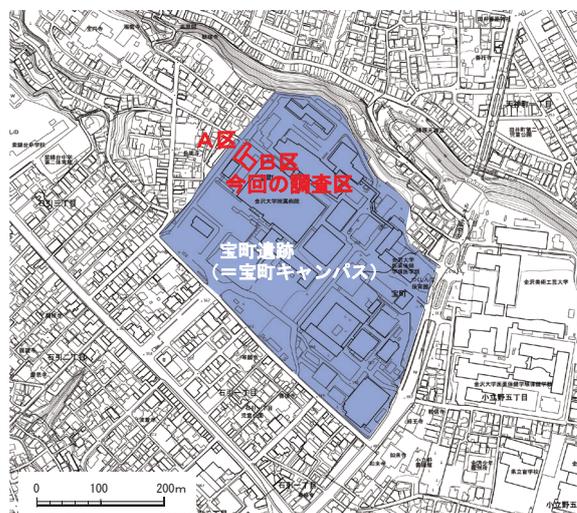
宝町キャンパスの現地表面から約 1 m 下に、貴重な「財」が眠っていたことが明らかになりました。



A 区遠景（北から）



B 区遠景（北東から）



宝町遺跡の範囲と今回の調査区の位置

IV 今回の調査から見た近代以降の宝町

今回の調査では、近代以降の遺構・遺物も見つかりました。特に目立ったのは、歴代の病院関係で使われていた食器類です。石川県金沢病院（1905～1922年）、金沢医科大学（1922～1949年）、済美会（1939～1949年 ※食器の使用年代）、金沢大学（1949年～）の銘が入った各種食器（磁器・硬質陶器）が多数出土しました。これらの食器の銘を見ると、その主流が青色から緑色に移り変わったことが分かります。

病院食器以外の近代以降の遺物としては、薬瓶と見られるガラス瓶等が出土しました。

近代以降の遺構については、現代にいたるまでの工事の繰り返しで残存状況が良くありませんでしたが、前身病院の建物跡と見られるレンガ・石積み等を検出しました。

これらの遺構・遺物は、近世に比べると新しい時代のものですが、金沢大学附属病院の前史を物語る「財」として貴重です。



歴代の病院食器



目盛り線入り薬瓶

目薬瓶

ガラス瓶



前身病院の建物跡

中世以前の宝町

宝町遺跡は、近世以降を主体とする遺跡であることは間違いありません。しかし、より古い時代の遺物もごくわずかながら出土しており、与力町形成以前から宝町の地に人々が暮らしていたことがうかがわれます。特に今回の調査では、古代の須恵器（杯蓋・甕類）と中世の珠洲焼（甕類）の破片が出土しました。

※古代≒奈良・平安時代、中世≒鎌倉・室町時代



須恵器（杯蓋）

須恵器（甕類）

珠洲焼（甕類）

珠洲焼（甕類）

古代・中世の須恵器・珠洲焼の破片

おわりに

「宝町」はキャンパスの近くにある宝円寺（前田家の菩提寺）にちなんで1964（昭和39）年に付けられた現代の地名ですが、奇しくもこの地は近世を中心として、まさに「財のまち」だったのでした。今年度実施した宝町遺跡第20次発掘調査においても、そのことが確認できました。

金沢大学埋蔵文化財調査センターは、これまで約四半世紀にわたって構内遺跡の発掘調査を続けてきました。構内遺跡といっても、埋蔵文化財は金沢大学だけのものではなく、国民共有の財産です。金沢大学は、これらの大切な「財」を今後も末永く守り伝えていかねばなりません。

令和3年度 資料館×埋蔵文化財調査センター後期連携企画展
 「財のまち！？宝町2 一宝町遺跡第20次発掘調査速報展」展示解説
 開催期間：令和4年2月1日（火）～3月11日（金）
 編集・発行：金沢大学資料館・金沢大学埋蔵文化財調査センター
 発行日：令和4年2月1日

